

英語 東北大学前期試験 2018 講評

あすなろ学院 英語科

【総評】

大問が4つで解答時間が100分という出題形式は、毎年同じである。全体的に、文脈を捉えさせる問題が多く、前後関係、段落内の話の流れ、段落同士のつながりなど、日ごろから意識して取り組んできた受験生であれば、取り組みやすい問題だった。**I**と**II**の問題は、選択問題が増えた分、易化した。**III**と**IV**の問題は、昨年と同様の傾向で、標準である。全体の難易度の変移は、4年前（やや難）→3年前（標準）→2年前（やや易）→昨年（やや難）→今年（標準）となっている。今年は標準としたが、東北大ということを考えると、やや易しめな印象もある。

I おじとおばの重要性（評論） 難易度：標準

長文は読みやすい。おじおばといった比較的遠い親戚への見方を述べた話である。

問1（下線部和訳）：「前置詞+関係詞+不定詞」のパターンは文法をやり込んでない人は厳しかった。

問2（指示語説明）：この段落の抽象から具体的な流れを捉えて読んでいた人であれば手が出せる問題だった。

問3（下線部和訳）：「V～as C」、「extensions of」がつかめていれば、さほど難しくなかった。

問4（下線部説明）：直前の「what～」から、抽象内容を示すことに気付いて、直後が具体と分かればOK。

問5（類語選択）：選択肢にある単語が基本的なものが多いので、文脈と併せれば平易であった。

II 宇宙の誕生と生命の起源（評論） 難易度：易～標準

長文は読みやすい。よくテレビで特集している宇宙の起源に関する話。

問1（下線部説明）：主語と動詞が離れているくらいで、特に難しさを感じない。

問2（指示語説明）：「This」と「theory」から、前述の内容をまとめられたらOK。

問3（下線部説明）：下線部の部分が「結果」の部分ということに気付ければ、その流れを答えればOK。

問4（文整序）：ディスコースマーカーと文脈を意識した練習をしていれば、いたって簡単であった。

III 生活に影響を与えた発明品（対話） 難易度：易～標準

読みやすく、話の流れも平易。語彙も基本的なものばかり。

問1（空所補充）：話の流れをつかんでいれば、選択肢も消去法で解けるので、迷った人は語彙不足である。

問2（内容一致問題）：全文を読んでから、選択肢の主語動詞から精査していれば問題ない。

問3（自由英作文）：非常に取っ付き易いテーマだった。“発明”であれば何でもいいことに気付ければOK。

IV 英作文 難化：やや難レベル

英訳する日本語よりも、伝えたいことは何かを英作するようにすれば、見た目の難しさは和らいだと思う。

A（下線部英訳）：叱咤激励を受ける側で考えれば、「being scolded and encouraged」と気付けたのでは。

B（下線部英訳）：日本語をまともに英訳しようとするとドツボにはまる。

「関心が向かう」を「関心が変わる」とニュアンスを変えないで、自分が表現しやすい日本語にする練習をしていた人からしたら、Aに比べたら手が動いたのではないかと思う。

【学習対策】

日頃から「語順を意識した語彙の暗記」や「英文に要素をふる」という、手間がかかることの積み重ねをすることです。問題を解く経験よりも直接英文に触れたり、分析する経験を積むようにしましょう。